



森ボラ通信

第31号 2004年 12月20日発行

北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目 金市館ビル8F

Tel 241-8155 Fax241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

1月セミナーのお報せ

- 日時 2005年1月17日（月）午前10時から
- 場所 リンケージプラザ（北1条西9丁目）
- 講師 棟方鋼男さん
- テーマ 日本の森林と針葉樹人工林

参加無料です。会員以外の方もお誘いあわせのうえふるってご参加ください。



「知床旅情」合唱の一曲マ。森ボラの歌を作ろう！と盛り上がりまし

た。詩は湯澤さんが練っています。作曲者募集します。

洞爺湖で忘年会

12月21日（火）参加22名。予定時間きっかりに札幌出発。バスは当協会貸切状態でしたので、事務局から第二回目理事会の報告やら酒井さん、芝さんからの最新の状況報告等をいたしますとまもなく中山峠でした。トイレ休憩。峠で仕入れた飲み物等でアルコールがほどよく回ったところで到着。16時前でした。宴会を18時としましたので、みなさんゆっくり入浴。

18時予定どおり宴会開始。酒井さんの開会あいさつ。渡部さんの乾杯音頭ではじまり、湯澤さんのタケノコその他の配布をビンゴでやりましたので、このあたりから座が乱れはじめまして、和気藹々の雰囲気となりました。カラオケも始まりまして、最後は全員で「知床旅情」の合唱で会場の部を締めくくりました。ひきつづき部屋での二次会になだれこみまして、会話がはずみ、22日になってお開きになったようでした。翌朝は9時45分のバスで早いのですが、復路のバスの中でも交流が続く形となりましたので、充実した忘年会でした。

12月勉強会（セミナー）

12月15日（水）参加36名。他に林業関係者数名。「森林の多面的機能の発揮に資する森林施業について」

の講演は、われわれが行っている市有林森林施業のコンセプトと一致していることが確認できました。適地適木。生物多様性の維持と向上等、澄川、有明ともにその方向で手入れしてきましたことが正解であったことを慶びましょう。

12月 幹事会

12月13日（月）13時より定例幹事会を行いました。

1. 第二回理事会の報告
2. 有明第二については有明小学校との連携で学校林としての位置付けを行うことになりました。活動としては3月～4月にかけて巣箱の製作および設置をおこないます。
3. 法人会員勧誘の材料として葉の制作を行います。
4. 勉強会の講師は1月棟方さん（日本の森林と針葉樹人工林）。2月酒井さん（北海道におけるバイオマスプラント）。3月高野（沙漠緑化の実際とホブチ沙漠）を予定します。
5. 平成16年度の入林交通費は有明、澄川、西野、森林総研の分について支払いの方向で調整します。
6. 日本郵政公社の中間監査が1月18日に来協の上行われます。

有明小学校との打合せ

12月13日（月）10時、山岸さんに導かれまして有明小学校を訪問し田山校長先生と話し合いが出来ました。かねてから小学校の裏山にあたる有明第二には、子供達が活用している痕跡がありましたので、正式に学校林として認知して、その方向で手入れをした方が楽しいと思っていましたが、学校側の大いに乗り気をしめてくれましたので、札幌市と調整することになりました。

山岸さんは北海道大学の大学院生であり、当会を研究のフィールドとするべく入会されました。4ページに山岸さんの研究の主旨を掲載しました。

木工作業

11月29・30日、12月10・17日。参加延べ55名。加治久美子さんのフクロウの靴べらは、協会ブランドにし

たい作品です。師走に入ってから石川さんが藁を持ち込み、正月用の注連飾りづくりを指導。口巧者な石川さんは手先も器用でした。新規会員の斎藤さんは木工指導員の資格を持っています。斎藤さんの力を借りて、収益につながるような協会の「商品」を作りたいものです。酒井さんが薪ストーブで、根曲りの竹炭づくりに挑戦しました。消臭材やインテリアに、商品となり得る可能性ありです。根曲り竹の活用法について、他にも良いアイデアあればお寄せください。（柴田記）

第二回理事会の報告

11月29日（月）第二回理事会を市民会館会議室で行いました。横山理事長以下8名の理事および監事の出席のもと、平成16年度の活動報告（中間）と今後の方向づけが決まりました。森林施業活動はほぼ順調に終了しましたので、中間ではありますが、最終を見通した報告をいたしました。

JICA札幌とのうちあわせ

11月25日（木）酒井代表幹事、柴田さん、高野でJICA札幌事務所と打合せをしてきました。ホンデュラスプロジェクトの進行は、ずれこんではいますが、前向きにスケジュールに乗っていることが確認できました。

西野台風18号被害木調査

11月25日（木）参加12名、26日（金）参加11名。先月号のボラ通での棟方さんの報告を読んでも、惨状を目の当たりにして思わず嘆声が上がりました。札幌市内では最もひどいと言えるかもしれません。そこだけ巨人が掻き回したか、未知なる宇宙船でも降り立ったかのように、見事にポッカーリ穴があきました。風のエネルギーの前に呆然とするのみです。

2日間で498本の被害木を調査。8割弱がニセアカシアで他はドロノキ、ヤナギが目立ちました。複雑に折り重なった倒木を乗り越えての調査は時間がかかり、骨の折れる作業でした。薄気味悪いほど鬱蒼としていた場所ですが、思いのほか後継樹が育っています。今後ニセアカシアの発生の様子も見ながらどう整備して行けるのか、皆で考える良い機会です。地元の町内より安保さんも入会しています。できれば周辺住民も引き込みながら形作って行けたらと思います。（柴田記）

澄川本年度作業終了

11月24日（水）参加20名。若い新人（古内さん）が来て皆なんとなく元気が出て今年度の澄川サイトの活動は全て無事終了しました。

1. 除伐

沢の左奥地の除伐も終了し、株は2本仕立てとなりました。数年後に一本仕立てとし、巨木の森に誘導します。但しヤマザクラとミズナラ（ホダ木用）はそのままです。

2. ホダ木

ヒラタケがシナとサクラのホダ木に記念写真のとうり沢山発生しました。お澄ましがおいしかった。ホダ木は3ヶ所に冬囲こいして、シートをかけました。来春4月またホダ場に広げましょう。来春、沢山の風倒木に玉切りせずに全木に菌駒を打ち込む案が出され是非やりたい。



3. 沢筋の掃除

来春の雪解け洪水にそなえて橋をはずし流れの掃除をしました。渡部さんは沢で泳いで全身ビショビショでした。

4. 薪運び

木工教室にデンマーク製薪ストーブが11月22日設置されたので昨年割って置いた堅薪を杉本邸に運びました。（酒井記）

外部企画行事参加報告

我協会HPで紹介された、NPO法人アース・ウィンド企画イベントに参加してきました。日時：2004年11月23日(日帰り)、場所：洞爺村財田キャンプ場及び近隣民有林、会費：500円、参加者：20人、交通：北口より無料ワゴン車、内容：前年より継続中のカラマツ間伐跡地説明と同間伐材を利用した手作りログハウス(6㎡)及びウッドデッキ(12㎡)の公開、更にチェーンソーと刈払機の操作体験、施設内のペレットストーブを使いペレットの燃焼実演、木彫キーホルダーの配付、昼食時豚汁サービス。

カラマツ民有林は去年私と酒井さんが毎木調査とチェーンソー、刈払機の指導をした所、スタッフ3名は去年と同じ若者達だが参加者にチェーンソーの取扱いを実演指導するほどの腕前に成長していました。又、ログハウスはカラマツ間伐丸太を製材工場太鼓落しに挽立てし、それを重ねて組立てたもの、本格的技工ではなく簡易技工(その技工を記憶してきた)、更に間伐不良木や廃材を旭川の林産試験場へ持込みペレットに製品化し、その製品を使いペレットストーブの燃焼実演を横須賀代表がやって見せてくれました。

横須賀代表が主張してきた「森林の再生と森林資源の活用」を見事に実行して見せてくれて、更に代表はツ

リーハウスに注目し、目下スタッフにツリーハウスの講習や勉強をさせているとのことでした。（加治記）



木工会場にデンマーク製薪ストーブ設置

11月22日（月）、木工会場の杉本邸駐車場に薪ストーブが設置されました。酒井さん寄贈によるこのストーブはデンマーク製。機能重視のシンプルなデザインで燃焼のしくみが良くわかります。長い眠りから覚めたストーブは、この時を待っていたかのように勢い良く燃えました。試運転の薪は三角山リンゴ園のリンゴの枝。部屋全体が甘い香りに包まれました。

午前10時設置開始、午後3時設置完了。設置者5名言葉なくストーブの前を動けずに、ただじっと炎を見つめていました。きっとこんなストーブを前に、アンデルセンの童話は生まれたのでしょうか。昨年の澄川の除伐材が程よく乾燥して、一冬分の薪の準備はできています。この火に暖められ、この火を見つめることは、自然との関わりの基本のような気がします。多くの会員にこの暖かさを感じてほしいと思っています。（柴田記）